

庄内圏域の水道広域化について

鶴岡市水道事業の現状

- ・人口減少等による水需要の減
- ・物価上昇等による維持管理経費の高騰
- ・施設老朽化による更新需要の増加

今後の
予測

水道料金の長期的見通し

1立方メートルあたり
の平均供給単価の試算

R 4決算	209.1円
R14見込	293.1円
R24見込	394.2円
R34見込	481.2円

10年で1.4倍
20年で1.9倍
30年で2.3倍

経営上の課題

- ・水需要減に伴う給水収益の減少
- ・効率的な運営によるコストの縮減
- ・給水人口減少等による施設規模の適正化（ダウンサイジング）

事業継続上の課題

- ・老朽化施設の更新、耐震化整備による施設健全化の確保
- ・人材の確保及び技術継承

・単独経営による対策や経営努力だけでは限界がある

・用水供給事業の受水団体である酒田市・庄内町も本市同様に経営状況が悪化すると想定されている

対応の方策

鶴岡市・酒田市・庄内町
による水道広域化

水平・垂直統合の場合
1立方メートルあたり
の平均供給単価の試算

R14見込	238.5円
R24見込	284.9円
R34見込	360.6円

R14 1.1倍
R24 1.4倍
R34 1.7倍
まで抑制

ねらい

- ・重複する事務運用や維持管理業務の統合
- ・国交付金対象事業の増加に伴う効率的な施設の改築更新
- ・技術職員の減少に対応した人員の確保及び育成
- ・災害等対応時における職員の支援体制の構築

効果

スケールメリットによる
コスト削減 及び
料金上昇幅の抑制

体制の強化による
事業の強靱化